

7月の果実の見通し

令和元年6月29日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
おうとう	山形 北海道 など	225	120%	427	1,641	安い	1,449	146	64.9%	<p>本年は開花期前後に好天となったが、生育は主産地山形県を中心に前年に比べて遅れた。</p> <p>6月中旬から山形県産「佐藤錦」の出荷が始まり、下旬から月末に向けてピークとなる。秋田産も中・下旬から出荷開始となった。6月末には山形産「紅秀峰」も始まり、7月初旬から潤沢な出回りとなる。北海道産は6月27日より始まり、前年より早く、豊作年となる。</p>
もも類	山梨 福島 など	6,039	80%	6,330	644	高い	569	5	0.1%	<p>各地とも平年より開花が早い、生育は前年より遅れ気味。肥大状況も良いが、産地によっては干ばつの影響が出ている。</p> <p>7月の販売中心となる山梨産は6月中・下旬から「はなよめ」「ちよひめ」が始まり、下旬以降から「日川白鳳」の出荷が始まる。前年は6月中に販売終了となったが、本年は6月末～7月上旬がピーク。7月上・中旬からは「早生白鳳」の出荷が始まる見込み。</p> <p>福島産は、昨年は6月末から早生品種の出荷が始まったが、本年は7月初旬から開始。主力品種の「あかつき」は7月24日頃から開始の予定。</p> <p>山形産は、昨年は7月下旬から出荷が始まったが、本年は8月から。長野産のピークは昨年より遅く、8月に入ってから。</p>
ぶどう類	山形 山梨 など	1,397	90%	1,338	1,381	前年並み	1,202	563	40.3%	<p>島根産「デラウェア」の出荷は、前年同様6月ではほぼ終了。7月は山形産が中心となり「海の日」前後にピークを迎える。</p> <p>7月下旬は加温物が減少し、8月に入ってから無加温物が増量。山梨産の露地物は7月10日以降から始まり、平年並みの出荷となる。</p> <p>大房品種の露地物の生育は順調なもの、前年と比較して早いわけではない。ハウス物は、当初見込みより生育が進まず、各産地ともに7月上旬から増量、7月いっぱいまで量が出揃う。</p> <p>山梨産「巨峰」の露地物は7月下旬から始まり、8月以降ピーク。本年も粗相では気温が高く、高温障害による着色遅れが懸念される。</p>
すいか類	長野 山形 など	12,403	95%	13,140	231	安い	188	3,180	25.6%	<p>関東甲信地方は6月7日に梅雨入りしたが、中・下旬は過ごしやすい気候となっている。</p> <p>現在、千葉産は5月の交配時期の天候不順の影響で出荷量は少ない。熊本産は終盤、鳥取産の引き合いが強まっており、7月上旬まで販売の中心となる。</p> <p>各産地の出荷開始の見込みは、新潟産は6月下旬から、長野産は7月に入ってから、神奈川産は10日前後、山形産は前年より若干遅れて10日以降から。前年は梅雨明けが早く、引き合いが強まった。本年度も早めの梅雨明けを期待したい。</p>

7月の果実の見通し

令和元年6月29日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
メロン類	千葉 北海道 山形 など	2,944	95%	3,829	487	前年並み	423	964	32.7%	<p>関東産露地メロンは、前年同様作柄が良く前進出荷となっている。茨城産「アンデス」「クインシー」「タカミ」ともに6月いっぱいではほぼ終了。7月は山形産の「アンデス」「パンナ」「レノン」「クインシー」、千葉産の「タカミ」「アムス」中心の販売となる。6月下旬からは夏のギフト需要から「アールス」の引き合いが強まり、価格も上げ基調となっている。</p> <p>7月1日より北海道産(JAきょうわ)の出荷が始まり、中旬から赤肉系品種も始まる。青森産の「タカミ」「デリシイー」は上・中旬から出荷開始の見込み。</p>

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果㈱)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)